

これ一冊で中国出張も安心

ものづくり現場で使える 「中国語表現」入門 —英語表記付き

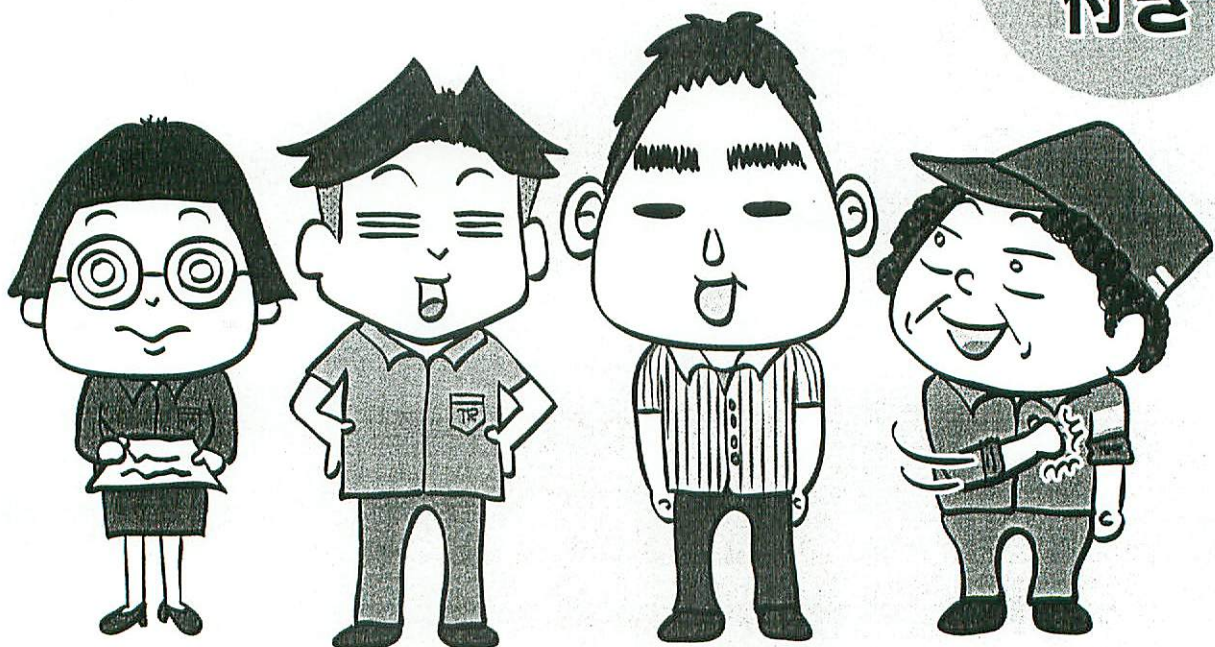
JTEX 職業訓練法 人 日本技能教育開発センター

著者

たかぎ りょうこ うだがわ おさむ
高木 良子・宇田川 撰

工場での仕事の手順にそった内容構成
中国の現場で本当に必要なひとことが伝わる!

CD
付き





テキストの説明



本テキストは、フレーズを学習する本編と、中国語を学習するための基本を掲載した、巻末付録の構成となっています。

○ 本編

中国出張のストーリーで、技術者が中国で遭遇すると思われるシチュエーションのフレーズを学習。特に重要なものを「基本フレーズ」、その発展・応用を「応用フレーズ」として、さらに、フレーズの言い換え表現を「関連表現」として掲載しています。

基本フレーズ：各紙シチュエーションで「これだけは使えるようになっておきたい」というフレーズ。

関連表現：シチュエーションの展開に応じた使い分け表現。

英語表現：外国語学習で日本人が最も慣れ親しんだ、英語表現も併記。中国語に表現するのが難しそうな日本語も、英語をヒントに考えると表現しやすくなるものもあります。

5 章 金型メーカーで

金型チェック

金型を開いて見せてください。

请 打开 模具 让我 看一下。

Please open and show me the mold.

金型図を見てください。

请 让 我 看 一 下 模 具 图 纸。

Please show me the mold drawing.

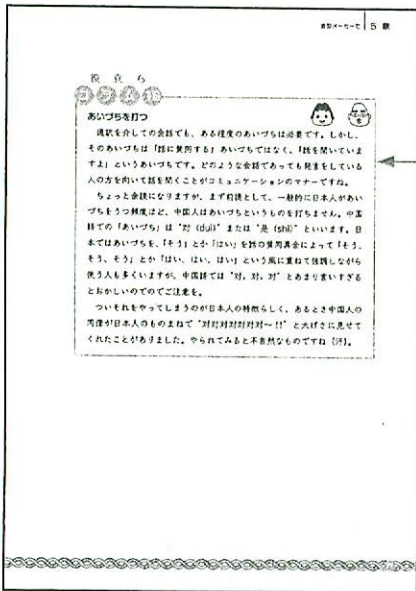
成形機が見たいときの表現。
「成形機を見せてください。」
请让我看一下模具。
Please show me the molding machine.

何トンの成形機がありますか？
What is the capacity of your molding machine?

解説：フレーズに使われている文法や単語、使い方について解説します。

CDトラック：音声が入っているトラック。「基本フレーズ」「応用フレーズ」「関連表現」がひとつのトラックにになっています。※「ホテルで使うフレーズ」(テキストp.28~31)「食事の場で使うフレーズ」(テキストp.146~147)もCDに収録しています。

応用フレーズ：「基本フレーズ」の発展・応用。ここまで使いこなせるようになれば、仕事の効率もアップ！



コラム：著者の実体験にもとづいた、中国生産現場の現状を掲載。

○ 巻末付録

中国語を学習する上で基本となる表記や発音について解説。また、中国出張に行く前に知っておきたい、実際に現地で使われている中国語のことや、通訳との話し方のコツを掲載しています。

◎ 北京語は標準語ではない！

中国語には、広東省一帯で話されている広東語、上海周辺の上海話など、さまざまな方言がありますが、いわゆる「標準語」があります。中国語の中の標準語は「普通話（Pǔtōnghuà）」といいます。テレビニュースや新聞、教育の現場ではこの「普通話」が用いられます。私たち日本人が勉強するのは、通常は「普通話」です。

「普通話」は政治の中心である北京周辺で話される、北京語を主体として構成されています。しかし、あくまで「主体」としてはいるだけで、「普通話＝北京語」ということはありません。日本における標準語と、東京に住む人たちが使う言葉が完全にイコールでないのと同じです。

◎ 声調＝四声とは？

中国語の発音には、日本語には無い特徴として音の高さがあります。これを声調と言います。ピンインの上に「1」「2」「3」「4」などの、数値のない記号が記されています。これは声調を表しています。

声調には、第1声・第2声・第3声・第4声の4種類があり、これを四声と呼びます。各声調の特徴は次のとおりです。

第1声	第2声	第3声	第4声
言葉を繰り返して「ばーっ」というイメージ	平直がスゴんで「あま？」というイメージ	落ち込んで「はあー」というイメージ	カラスが鳴くよ「カー」というイメージ
高い声で一定に伸ばす	低い声から一気に高い声に上がる	高い声で一定に伸ばす	低い声から一気に高い声に下がる
妈 (お母さん)	麻 (マ)	马 (ウマ)	骂 (ののしる)

◎ 標準語を勉強しておけば大丈夫？

中国出張のため、中国語の勉強を始めようとしたとき、「自分が出張に行くのは北京なのに、「普通話」の勉強をしているのだから？」という疑問を持った方もいるでしょう。

たしかに広東省であれば広東語、上海であれば上海話のように、出張先の方を基準に話したことはあります。しかし、現在の中国は出張者の数が非常に多いため、訪問者が出張する工業地帯には、中堅企業から人々が集まっています。広東省の工場だからといって、広東語ばかりが話されているわけではありません。

ですから、あらゆる地方の担当者を通して話されている「普通話」の方がむしろ都合なのです。方言が強く染み付いている地元の出身者は、話ができずうまく「普通話」を話すことはできませんが、他人が話す「普通話」はちゃんと理解できます。

※本テキストで記載している読み仮名は、「中国語音節表記ガイドライン [平凡社版]」に基づいています。



もくじ 一 目 録

本編

1 か月目学習

序章 必須フレーズ	2
1 章 空港で	18
2 章 工場到着	32
3 章 設計と打ち合わせ	38
4 章 部品はそろっているか?	50
5 章 金型メーカーで	60

2 か月目学習

6 章 生産手順の確認	72
7 章 生産ラインでの試作	82
8 章 カイゼン活動	90
9 章 検 査	100
10 章 梱包出荷	108

3 か月目学習

11 章 アフターミーティング	116
12 章 不良解析	126
13 章 サンプルを持ち帰る	136
14 章 お疲れ様でした～懇親会	140
15 章 帰 国	148

巻末付録 中国語の基礎	153
-------------------	-----

北京語は標準語ではない！／標準語を勉強しておけば大丈夫？／声調 — 四声とは？／ピンインとは？／「簡体字」と「繁体字」／数字表現／通訳の取扱説明書／ピンイン・読み仮名対照表